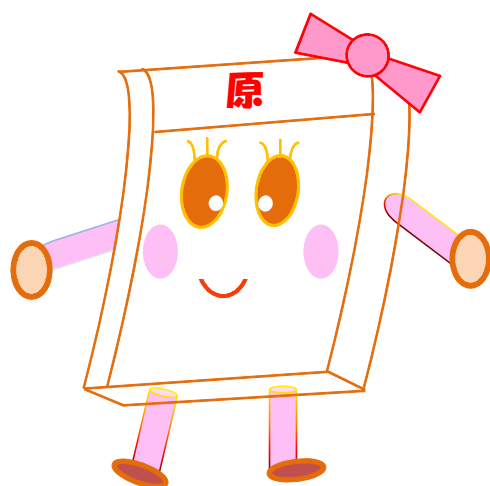
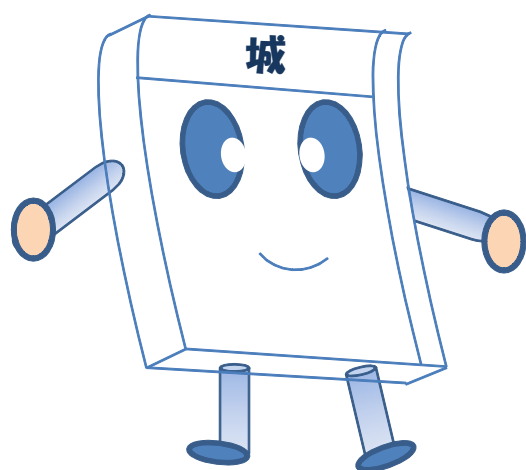


自分の可能性をもっと伸ばそう！

自学の進め方

ハンドブック

教員用



竹田市立城原小学校

1 自学とは何でしょうか？

(1) 自学と宿題の違い

みなさんは、「自学とはどのような学習なのか?」、「なぜ、必要なのか?」と考えたことがあるでしょうか。

子どもたちの家庭学習には、宿題と自学の2つがあると思います。そこで、まず宿題と自学のちがいを考えたいと思います。

宿題とは、どのようなものでしょうか。たとえば、授業の復習のためのプリントや国語の意味調べなどがありますが、共通点は「私たち教師が内容を決めているもの」ということです。一方自学は「子ども自身が内容を決めるもの」という点が一番の違いです。

宿 題

「今日の宿題は・・・」と、子どもたちが先生からの指示で行う家庭学習

自 学

「今日はこれをしてみよう」と、子ども自身が考えて行う家庭学習

(2) 自学の大切さ

では、どうして宿題だけでなく自学が大切なのでしょうか。「宿題は決まっているものをするだけだから簡単だけど、自学は何をするかを考えないといけないのであんまり好きじゃない。」という子もいます。

しかし、これから子どもたちが生きていく社会は、「だれかに指示されたことをするだけ」では生き抜くことが難しくなります。自分の考えをしっかりと持って、それを他者に伝える力や課題解決のために様々な情報を集め、整理・分析し、自分なりの解決方法を探し、実践していく力が求められてきます。

そのような力をつけるためには、「教師に習う授業」から「自分で学ぶ授業」へと授業観を転換することはもちろんのこと、自学を進めることによって、日常的に取り組むことが重要となるのです。

自学は難しい勉強ではありません。また、はじめからうまくできなくてもいいのです。毎日少しずつ続けて取り組むことで、自然と子どもたちの中に「自分で考え決める力」が育ち、自分の可能性を伸ばしていくことになるのです。

でも、「自学にどのように取り組めばよいかかわからない。」という子どもたちにどうアドバイスしたらいいかわからない人もいるかもしれません。

そこで、次は自学の進め方とそれへの対応の仕方を一緒に考えてみましょう。

2 自学の進め方とその対応

自学を進めるためにはいくつか大切なポイントがあります。ただ、やみくもにとりくませても「自分で考え決める力」は育ちません。また、子どもの取り組みに対する対応の仕方も大変重要となってきます。

そこで、実際に自学を進める順序と合わせて説明したいと思います。

ポイント1: 取り組む内容は「自分が好きなもの、興味あるもの」を最優先に

まずは、何をするかを決めなければなりません。しかし、きらいなものや興味のないものでは長続きしません。むかしから「好きこそものの上手なれ」ということわざがあるように、人は好きだからこそ努力を続けてうまくなることができるのです。

そこで、自学をするときにも「自分が好きなもの、興味あるもの」に取り組むことが大切になると思います。

また、粘り強くがんばれる人は、苦手の克服に挑戦することもよい取り組みになります。努力して苦手を乗り越えることは、自分自身に対して自信がつき、大きく成長する機会になります。

さらに、今授業で勉強していることに合わせた取り組みもよい方法です。なぜなら、学んだことを自分なりにまとめ直すことで、理解が一層深まるからです。

内容を定める視点

- ① 「自分が好きなもの、興味あるもの」に取り組むこと
- ② 苦手の克服に挑戦すること
- ③ 授業で勉強している内容に合わせること

支援のポイント

○例示は複数提示して、最終的には必ず自己決定を促す

自学において重要なことは「自己決定」です。決して内容を教師が決めてはなりません。ですから、日頃から子どもたちの興味・関心の所在をよく見ていく必要があります。また、内容を例示する際には「1つだけ」ということは絶対に避けましょう。「1つだけ」は助言のようであっても、子どもたちにとっては「教師からの指示」なのです。

必ず複数を例示して、最終的な決定は子どもたちの判断にゆだねることが大切です。

ポイント2:「めあて」と「振り返り」は必ず書くこと

実際に自学をするときは、「めあて」と「まとめ」を必ず書くようにします。

「めあて」は「**自分は何をするのか**」をはっきりさせるためにとっても大切です。自分で考え、自分で取り組む学習が自学ですから、これがなければ「自学」とは言えません。

また、「振り返り」は取り組んだ内容が「めあて」に照らしたときにどうだったかを自己評価（見つめ直し）するために大切です。成長のためには振り返りが不可欠です。

「めあて」と「振り返り」の例

<よくない例：1>

新しい漢字かんじをおぼえる。 → れんしゅう練習してだいたい覚えた。

<よい例：1>

書き順を正しく覚えるために、漢字ドリルを見ながら、ポイントにまとめる。 → 「書はくしぎし」など、3つのポイントを新しく作って覚えた。

<よくない例：2>

筆算の計算をする。 → 正しく計算できるようになった。

<よい例：2>

かけ算の筆算の計算のしかたを順序よく正しく覚えていく。 → 数が大きくなると位どりに気をつけなければ計算ミスをしやすくなる。

支援のポイント

○「めあて」に変化がなければ、教師から助言する

漢字を覚えるためにドリルを繰り返すだけでは考えを深める場面がありません。考えを深めるとは、考えたことを自分なりに整理して、自分なりに表現するまでのプロセスで身につけていきます。ですから、「ポイントにまとめる」や「順序よく」などめあての中に「表現すること」までが記述されるよう助言していく必要があります。

ただ自学に取り組ませることでは成長が期待できません。取り組みに対して私たち教師がどのように応えるかによって、子どもたちの成長が左右されるのです。教育のプロとしての力量が問われるとともに、子どもたちの成長に関わるというやりがいがある取り組みなのです。

「振り返り」と「まとめ」

「振り返り」とは、取り組んだ内容に対する感想、気づき、反省等により、子ども自身に学びの自覚を促すものです。「まとめ」とは、取り組んだ内容そのものを自分なりに整理して、重要なポイントに書き表したりすることです。子どもには判断が難しいところですが、「まとめ」は、取り組み内容の中に含むよう助言しましょう。

ポイント3:工夫を1つ以上取り入れること

自学を楽しく続けていくためには、自分らしい工夫をしていくことも大切です。例えば、「絵や図を入れる」「吹き出しを使う」など、その方法は様々ですが、工夫を入れるということは「工夫することを考え、それを書き表す」(out put)ということで、それが自学で一番大切なことだからです。

<これまで出会った子どもたちの素晴らしい取り組み>

- 社会の授業で学習したことを絵や図を使って自分なりにまとめ直した取り組み
- 県名や地名をクイズにして出題した取り組み
- 保健だよりを読んで、それをマンガ風にまとめ直した取り組み
- 自分の思いや考えを作文にした取り組み
- 理科の実験の流れに沿ってマンガ風にまとめた取り組み
- 友だちに読んでほしい本の紹介文を書いた取り組み など

上で紹介した取り組みに共通していることは、ただ写したり真似したりしただけでなく、①何かを読んだり学んだりする(情報収集)→②それについて自分の考えを持つ(整理・分析)→③自分の得意な方法で表す(表現) というプロセスがある点です。このプロセスこそが自学の根幹ですから、ここさえ押さえておけば必ずよい取り組みになっていきます。



支援のポイント

○少しの工夫でもほめる

子どもたちの工夫は、教師から見ればあまりよいものと感じられないことが多くあると思います。そのようなときに「もっと工夫しなさい」「他に工夫はないの」など否定的な声かけをしてしまうと、子どもたちの意欲を削いでしまう結果となります。「こうしたらどうかな?あなたの書きたいことがもっとよく伝わると思うよ」「ここが工夫だね。次はこんなことにも挑戦すると面白いよ」など、子どもの取り組みを肯定的に受け止めた上で、次につないでいくような言葉かけが大切です。

○友だちの取り組みを紹介する

他の子どもたちの取り組みを紹介したり、掲示したりして刺激を与えることも大切です。そうすることによって、「こんなやり方もあるんだ」という気づきが生まれるのです。

ポイント4: 必ず内容に対するコメントを書き込むこと

最初からよい取り組みができるわけではありません。ですから、最初からよい取り組みを子どもたちに求めてはなりません。自分のペースで少しずつ力をつけてほしいと思っています。

しかし、放っておいては進歩は期待できません。教師のアプローチこそが成長のカギであり、そのためのポイントが「コメント」なのです。

花丸は付けないようにしましょう。子どもたちの作品が見にくくなってしまいます。また、内容に対する数値や記号等の評価もあまりよくありません。重要なことは子どもたちを伸ばすことにあるので、その視点に立ったアドバイスということです。



支援のポイント

○ 「いいね」「すごいね」「なるほどね」の視点でコメントを

「いいね」は子どもたちの取り組みに対する称賛です。「すごいね」は驚嘆・感動です。「なるほどね」は共感・納得です。どれも子どもたちの取り組みを共感的に受け止める対応です。ただし、それだけでは不十分です。「何が」「どのように」ということを合わせてコメントすることで、子どもたちに自己の取り組みのよさについて顕在化させてあげることが重要なので、それを欠かしてはなりません。

○ 次につながるコメントを

ほめるだけが支援ではないということは当然のことです。「もっとこうしてほしい」という思いは教師であれば必ず持っていることです。そのようなときに大切なポイントは、否定的な言葉を使わずに、次につながるような（意欲を喚起するような）コメントを書くということです。

例えば、字をていねいに書いてほしい子どもに「もっときれいに書きましょう」とコメントするよりも、下手な字の中から少しでも上手な字を探して「今日の自学の中の〇〇という字はとてもよく書けてたね。先生はうれしいな。」というように「私メッセージ」で対応すれば、子どもたちも決していやな気持にはならないと思います。

また、「次はこんなことに挑戦してみるとおもしろいかもね。」というように、直接意欲を高めるコメントも大切です。

手段と目的

子どもたち自身の「学ぶ力」を育むことが目的で、そのための手段として自学の取り組みが重要となります。そのためにも、教師からの言葉かけ（声、記述）がとても大切になるのです。決して自学をすることが目的化してはなりません。

ポイント5: 成果を形にして、成長を実感させてあげること

自学では学力の向上だけでなく、継続的な取り組みをとおして自己の成長を実感し、自己肯定感を高めていくことも非常に重要です。

そこで、子どもたちの取り組みを何らかの形にまとめてあげること効果的になります。例えば、四コママンガに取り組んだ子どもがいれば、それを集約したマンガ冊子にしたり、生き物が好きな子であれば「〇〇くん編集生き物図鑑」にしたりするなど、形として残すことで達成感を感じることができると思います。

達成感や成長の実感こそが次への意欲の源になるので、教師サイドの工夫として大切にしたいと思います。

私たちの授業の中で「子どもが学ぶ姿」が見られれば、自ずと子どもたちの自学のレベルも向上してくるはずですが、自学は子どもたちのためだけでなく、私たち教師がこれから求められる授業を実践できているか否かを見極める評価指標としても重要です。

取り組みの参考例

- | | |
|------------------|----------------|
| ○漢字の熟語集め | ○テーマ作文、詩、短歌、俳句 |
| ○竹田の方言 | ○つなぎことば、飾りことば |
| ○新聞やニュースで気になったこと | ○身の回りの自然観察 |
| ○授業のまとめ直し | ○4コマまんが |
| ○新聞づくり | ○算数の問題づくり |
| ○クイズづくり | ○行事の由来調べ |

ここに取り上げたのは一部です。自学の材料は子どもたちの普段の生活の中にたくさん溢れています。ただ、それに気付くアンテナを持っていなければ見逃してしまうのです。

ですから、何でも挑戦させてみるのが大切です。うまくいなくても大丈夫！ときには「先生、〇〇をしようと思ったけどうまくいきませんでした。」という自学のページがあってもいいのです。

失敗を繰り返しながら、少しずつアンテナの感度を上げて、一歩ずつ前に進む子どもたちを育てていきましょう。

ポイント6:年度初めにイントロダクション

スタートにあたっては、教師サイドからの説明が不可欠です。そこで、年度初めに自学の取り組み方について指導することが大変重要となります。

例えば、学級活動の時間にハンドブックを使って自学の概要を説明し、国語や算数などの教科の時間に具体的な取り組み方を授業の内容と合わせて指導していく方法などが考えられます。

何事もそうですが、人は最初は客体です。それを主体に変えるためには刺激の与え方がとても重要となります。したがって、ただ指導するのではなく、子どもたちひとり一人に合わせていくことが必要となります。そのためには子どもたちの興味・関心、性格等のある程度把握しなければならないので、ハードランディングではなくソフトランディングを目指しましょう。

ポイント7:評価のサイクル

何事も取り組みを行っていく際には、目的を達成するために取り組み自体を評価していくことが重要です。自学の場合は、子どもたちの取り組み内容を見ることで子どもの成長と教師の授業及び児童への指導を評価していく必要があります。

<教師の評価>

短いサイクルでの評価が必要です。自学の取り組みに対する評価は学期2回程度、授業改善については学期ごとに行う必要があります。自己評価だけでなく、校長・教頭をはじめ、学校全体で相互に評価していくことも必要となります。そのために、自学ノートのコメントを交換してつけるなどの方法も、お互いの状況を把握したり、学び合ったりする上で効果的だと思います。

<児童の評価>

こちらは長い目で見るのが大切です。子どもの成長はとてもゆっくりで、日々感じることはなかなかできません。でも、ゆっくりだからこそ、人として生きていくための力がしっかりと根を張り、大きく育っていくのです。

使い終わったノートは、いつでも子どもたちがお互いに見合える環境、自分の成長を感じることができる環境にしたいと考え、学校図書館前の学習・情報コーナーに個別に綴じてください。

「子どもは自分の力で成長していける存在である」と信じてください。教師と親はその成長をサポートする役割です。一人ひとり異なる人格ですから、私たちが理想とする人間に育ててほしいとの願いは大切ですが、そうでないことを否定したり、その方向に無理やり向かせることは決してあってはなりません。

そんな子どもたちに育てていくためには、学校と家庭との連携が不可欠です。このハンドブックに示した方向で自学の取り組みを行うことで、自分で考えることのできる「城原っ子」を家庭とともに育てていきましょう。

3 城原っ子「自学十カ条」

第一条

はじめに「目付^{ひづけ}とめあて」、おわりに「振り返り」

第二条

時間の目安は20～30分

第三条

漢字や計算練習は別ノート

第四条

字はていねいに、言葉はひとまとまりで

第五条

めあて、内容、振り返りの間^{あいだ}に必ず一行

第六条

得意^{とくい}はもっと、苦手^{にがて}も挑戦^{ちようせん}

第七条

内容はツールを使ってひと工夫

第八条

自学ノートに番号書いて、1年5冊

第九条

終わ^{おわ}ったノートは、マイ辞典

第十条

ときどきながめて、「ぼく（わたし）成長！」

参考資料 1

勇気づけのことば（アドラー心理学）

子どもたちに伝える言葉には勇気づける言葉とは勇気をくじく言葉があります。

勇気づけるメッセージ	勇気をくじくメッセージ
<p>貢献や協力に着目する</p> <p>あなたのお陰でとても助かった。 あなたが嬉しそうで、私も嬉しい。</p>	<p>勝敗や能力に注目する</p> <p>あなたは本当に有能だが・・・。 よくやったが、・・・。</p>
<p>過程を重視する。</p> <p>努力したんだね。 失敗したけど、一生懸命やったね。</p>	<p>成果を重視する。</p> <p>この成績で私は満足だが、・・・。 この成績ではね。</p>
<p>すでに達成できている成果を指摘する。</p> <p>この部分はいいと思う。 ずいぶん進歩したように思う。</p>	<p>成功だけを評価する。</p> <p>失敗しては何にもならない。 どうして失敗したんだ。</p>
<p>個人の成長を重視する。</p> <p>この前よりずいぶん上手になったね。 一步もどってもいいじゃないか。</p>	<p>他者との比較を重視する。</p> <p>あの人よりあなたの方が上手だ。 あの人に負けてどうするんだ。</p>
<p>相手に判断をゆだねる。</p> <p>あなたはどう思う。 一番あなたがいいようにするといい。</p>	<p>こちらが善悪良否を判断する。</p> <p>それは良くない。こうした方がいい。 これは良くできた。しかしここは・・・。</p>
<p>肯定的な表現を使う。</p> <p>気が小さいのではなく、慎重なんだ。 謙虚に反省しているんだね。</p>	<p>否定的な表現を使う。</p> <p>気が小さいね。もっと気を大きくもて。 メソメソするな。</p>
<p>「私は」メッセージをつかう。</p> <p>「私は」そのやり方が好きだ。 「私は」そのやり方をやめてほしい。</p>	<p>「あなた」メッセージをつかう。</p> <p>「あなたは」どうしてそうするのか。 「あなたの」やり方はやめなさい。</p>
<p>「意見ことば」を使う。</p> <p>あなたは正しいと思う。 あなたの意見には賛成できない。</p>	<p>「事実ことば」を使う。</p> <p>あなたは正しい。 あなたの意見はまちがっている。</p>
<p>感謝し共感する。</p> <p>協力してくれてありがとう。 やる気があるので嬉しい。</p>	<p>賞賛し叱咤激励する。</p> <p>よく働いてえらいね。 もっとがんばれ。</p>

参考資料2

リフレーミング

リフレーミングとは、心理学の用語で「枠組みを変える」ということから、「見方を変える」→「人の短所は、見方を変えれば長所になる」という視点で他者との関係をよりよくしていこうとする考え方です。

<例>

飽きっぽい ⇒ 好奇心旺盛、チャレンジ精神旺盛

あきらめが悪い ⇒ 一途（いちず）、粘り強い、最後までやり通すことができる

いいかげん ⇒ おおらか、こだわらない、寛大な

意志が弱い ⇒ 人を尊重できる、柔軟性がある、問題解決にむいている

うるさい ⇒ 明るい、活発な、元気がいい

臆病 ⇒ 慎重、用心深い、きちんとしている

おしゃべりな ⇒ 社交的な、活発な、頭の回転が速い

おとなしい ⇒ 穏やかな、話をよく聞く、思慮深い

かたい ⇒ 礼儀正しい、まじめ、自分をもっている

頑固 ⇒ 一貫性がある、意志の強い、信念がある、左右されない

空気が読めない ⇒ 動じない、自分らしさをもっている、自分らしく生きれる

子どもっぽい ⇒ クリエイティブ・素直な心

騒がしい ⇒ 明朗快活である、無邪気、発想が豊か

自分がない ⇒ 協調性豊か、受容的・共感的な

ずうずうしい ⇒ 堂々とした、積極的、押しが強い

だらしない ⇒ おおらか、ゆったりしている、こだわらない